

2015年3月17日

食品ロス削減シンポジウム

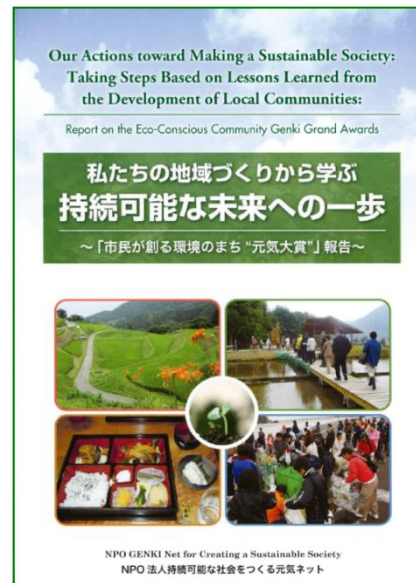
「食べものに、もったいないを、もういちど。」

NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
事務局 足立夏子

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットとは

1996年からごみ問題解決へパートナーシップを育み
市民・NPO・事業者・行政の連携でつくる
環境活動リーダーと共に学び合う全国ネットワーク

- 「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」
12年間で築いた全国ネットワークで
持続可能な地域づくりを推進
- 入賞事例86件からアジア向け
31事例をピックアップし、
日本語・英語併記の冊子に



くらし・地域から出るごみ(環境負荷)に 生活者・NPOとして責任を持ち 持続可能な社会づくりに貢献したい!

家庭から出る
ごみ・資源・CO2

くらしの
化学物質

高レベル
放射性廃棄物

市民・企業・行政の
パートナーシップで解決をめざす!

アジア3R 推進市民フォーラム
(環境省と連携)

2009年から国内19の団体と共に日本大会を開催後、
政府会合のサイドイベントを開催国のNGOと毎年実施

3R普及啓発、市民リーダー育成
(3R推進団体連絡会、企業と連携)

2011年から容器包装の3R普及啓発事業
2013年からは雑がみ調査連携事業等

くらしの課題として
地域で学び合う場づくり

「電気のごみ」意見交換会
(資源エネ庁・地域と連携)

2007年から全国で88回の
地域WS・意見交換会を開催、
リスクコミュニケーションのファシリテーター
育成と共に、地域との連携を広げている

「連携」で「共創」する循環型社会高度化に向けて

～地球環境基金助成事業として実施～

2013年度～2014年度

EUの循環政策視察・「個別リサイクル法見直しに向けた
マルチステークホルダー会議」開催と政策提案
(容器包装・食品・家電・自動車)

2020年東京オリンピック・パラリンピック
開催決定を受け、オリンピックを通じて
持続可能な循環型社会形成に貢献する
道を、市民・NPOの視点で考えたい。



2012年ロンドンオリンピック・パラリンピック
で、環境や廃棄物管理対策に深く関
わったキーマンをインタビュー-2014年9月



ロンドンのスーパー
サラダのテイクアウト
は、未だらしの
紙製容器



食品廃棄物発生抑制のための EU 勧告

1. 食品廃棄物のデータの報告
2. 日付ラベルの表示の統一(消費・賞味期限)
3. 食品廃棄物を出さないことに目標をしぼる
4. 分別回収の推進と補助金
5. 対象を絞ってキャンペーンをする



ロンドンオリンピックのごみ分別は、
ボックスの色と絵を決めて、どの会場も統一

- ① オレンジ～食品とコンポスト可能な物
- ② みどり～リサイクルできる資源(紙も)
- ③ 黒～リサイクルできないごみ
(減らすためにボックスを小型に)



世田谷区消費生活課区民講師 ひとえの会

●消費者市民社会とは？

消費者が将来にわたって、国内外の社会問題や地球環境問題に影響を及ぼしていることを自覚して、自らの消費行動を通じて積極的に社会参加していくことで作られる社会

消費行動が環境に及ぼす
影響を理解する

自分の消費行動に
責任を持つ

●消費者市民として...

どのような商品を選ぶのか、
ということは、どのような
社会をめざすのかということ

地球規模の課題にも、
消費者の視点から
身近にできることを考え、
行動する



世田谷区消費生活課 区民講師 ひとえの会

出前講座・区民講師

●世田谷区の出前講座は、消費生活課が区民講師等と協働して行う消費者啓発事業の一つ。講師の会である「ひとえの会」との連携・協働の仕組みが確立している

●世田谷区消費生活課が実施する消費者カレッジ・ステップアップ講座の修了生のうち、講師活動を希望する人が講師登録する。

●現在、約70名が講師登録。年間約100件の出前講座を実施している。(無料)

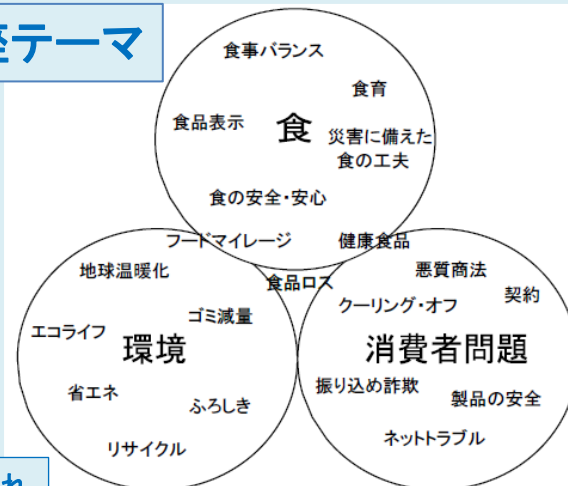
●区内のどこへでも出向いて、消費者問題・食・環境などの暮らしに役立つ情報を届ける。

ひとえの会

●目的: 広く消費生活に関わる学習を行い、世田谷区との協働により、世田谷区民に対して有用な情報提供、消費者啓発活動を行う。

●会員: 世田谷区消費生活課が実施する消費者カレッジステップアップ講座の修了生のうち、講師活動や更なる自己啓発を希望する人が入会する。

講座テーマ



出前講座の流れ

1. 出前講座の申し込み、受付
↓ 消費生活課がPRし、受付する。
2. 区民講師の決定
↓ 消費生活課が、ひとえの会の推薦に基づいて講師を決定する。
3. 講座のテーマ等、打ち合わせ
↓ 依頼者、消費生活課、区民講師の三者で行う。
4. 準備
↓ 打ち合わせに沿って、区民講師が講座を組み立てる。
5. 出前講座実施
↓ 複数の区民講師が、依頼者の希望会場にて実施する。
6. 報告書の提出
区民講師は報告書を消費生活課へ提出。より良い講座作りの材料にする。

主な依頼者(団体)

生涯学習グループ、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、町会、公立・私立小学校・中学校、PTA、他

講師が複数のわけ

- ・お互いに学習、切磋琢磨できる。
- ・新人も、ベテランとの組み合わせの中で、無理なく経験を積んでいける。
- ・さまざまなアイデアや手法、ツールの開発、共有ができる。

活動について

出前講座の活動に対して、消費生活課より、会場・コピー機の使用、教材作成等の他、交通費等についても費用弁償相当の支援を受けている。

元気ネットの3R普及啓発と市民リーダー育成事業 世田谷区消費生活課の出前講座とひとえの会

● どうしたら情報が伝わり、行動につながられるか

- ・パンフレット配布だけでは伝わらない → 口コミ、身近な人から人へ！
- ・新しい(正しい)情報が伝わっていない → 昔の情報、思い込みを捨てよう！
- ・若い世代へどうすれば伝わる？ → ライフステージに合った情報を！
- ・関心のない人には？ → お得な情報、楽しいイベントとセットで！

ゲームや
クイズで、楽しく、
わかりやすく

● 伝える人を育てるには

- ・専門家や企業と市民をつなぐ人が必要 → 地域リーダー、市民講師
- ・人材発掘と育成 → 行政、専門家、企業、NPO、市民の協働体制で
- ・学ぶ場と伝える場 → 両方が必要、場数も重要

楽しい、面白い、
参加したいが必要



楽しく学べる講座
プログラム開発も

● 持続可能な取り組みにしていくには

- ・長期的な支援体制 → 行政、NPO、市民、専門家、企業、それぞれの強みを活かして
- ・ひとりでは続かない → 仲間づくり、組織づくりを支援する仕組みを

連携の相乗効果

「食べものに、もったいないを、もういちど。」

毎日のお買い物や
自宅のキッチンと
地球環境は、
つながっているのん。

それぞれが持っている
情報の共有や
意見交換等、双方向の
コミュニケーションが
大切のん。



分かったことは、
人に話そう、
伝えようのん！

大きな視点と
身近な視点、
市民も両方の視点
を持つようのん！

食育、学校教育の場で
子どもたちにのん！